

平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の整備に関する検討委員会（第3回）

議事概要

日 時：平成30年10月5日（金） 14:00～15:45

場 所：奈良県文化会館 第2会議室

出席者：朝廣 佳子氏、今仲 進氏、魚島 純一氏、北口 照美氏、来村 多加史氏、
正司 哲朗氏、寺崎 保広氏、中村 孝氏、名草 康之氏、増井 正哉委員長

概 要：多くの利害関係者がおられることにより、委員の率直な発言に支障が生じる恐れがあるため、平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の整備に関する検討委員会運営要領第4条に基づき、非公開で開催。

県より、別添資料により検討状況を説明。

歴史体験学習館の機能について意見交換。委員からの主な発言は以下のとおり。

○県より、別紙資料により検討状況を説明。

○主な意見の概要

①歴史体験学習館の機能について

項 目	内 容
地域	<ol style="list-style-type: none">1. 歴史体験学習館が扱う範囲は、基本計画の中では、奈良全体を対象としている。奈良全体をメインとすべきと考えている。2. 奈良全体の時代の良さ、地域の良さがある。
機能	<ol style="list-style-type: none">1. 正倉院宝物を中心とした展示、体験が良い。2. 宝物展示を考える場合、施設の仕様については決めておくべき。3. 目的を絞り込まず、フレキシブルに対応できるような施設にすべき。4. 維持管理の面から、コストを回収する枠組みがないと20、30年後厳しくなる。 例えば、平城宮跡から飛鳥、斑鳩に向かうバスツアーなどは誘客につながるのでは。5. 観光事業を行っている人を取り込むことはできないか。6. 情報発信機能は、この施設単独では難しい。他の施設と連携できないか。
ターゲット	<ol style="list-style-type: none">1. ターゲット層に若者とあるが、小中学生、高校生、大学生では質が異なる。そのため、分けて考えた方が良い。2. ターゲットが多様であることを逆手に何か発想できないか。
体験及び展示の手法	<ol style="list-style-type: none">1. 平城宮は日本の国づくりの礎であることを伝えるべき。2. 人を呼び込む手法として、常に変化がないと人は来ない。 平城宮跡全体に動きがあるアクティビティが用意されている施設が必要。3. 展示物ベースだと、見て終わりになる。人をベースとした体験のさせ方を検討すべき。4. 日常の利用者に対して、交流スペースでのイベントを実施すべき。5. 衣食住をテーマに、当時と現代の技術を対比すると、現代がいかに便利か実感できる。6. 一般の方が興味を持つポイントを柔軟に考えるべき。